

NPOクラブの活動を会費、寄付で応援してください

NPOクラブは、千葉県全域を対象に市民活動を促進する事業やNPOの支援などを行っています。地域をもっと暮らしやすく、さらに地域力を高める活動を続けていくために、会費や寄付で支えてください！

年会費(賛同会員) 1口 団体会員 5,000円、個人会員 3,000円
 ※NPOクラブは認定NPO法人です。賛同会費・寄付は税制優遇の対象となります。

令和5年度 ちばし地域づくり大学校9月開講!

地域活動が初めての人も、既に活動している人も、地域とつながるそれぞれのカタチをさがす学びの場。

8月10日まで申込み可能です。詳しくは特設ホームページをご覧ください!

【申込】 ~8/10(木)まで特設ホームページで受付中

【会場】 千葉市役所、幕張公民館、千葉市民会館など各クラス指定会場。
 オンラインクラスもあり

【受講料】 無料

【主催】 千葉市

【問合せ・企画運営】 NPOクラブ

特設ホームページ→



今年は9月に開催!! ちばユニバーサル農業フェスタ2023in四街道

千葉県内の農地を守ることを目的として、「みんなで関わる農業=ユニバーサル農業」の考えを広め、出会いの場を提供するフェスタです。「農業の持つ可能性」や「農の価値」を社会に発信します。地元産の新鮮な農産物と手作りの加工品やお菓子、雑貨・木工・手工芸品などを販売。農業の情報提供、農福連携の活動の紹介なども行います。

【日時】 9/18(月・祝) 10:00 ~ 14:00 雨天決行

【会場】 四街道市文化センター(前広場および屋内ホワイエ・展示ホール)

【主催】 ちばユニバーサル農業フェスタ2023in四街道実行委員会

【問合せ】 実行委員会事務局 NPO法人地域創造ネットワークちば

TEL: 043-270-5601(土・日・祝休)

Email: souzounet@coast.ocn.ne.jp

Facebook「ちばユニバーサル農業」で検索



千葉県市民活動団体マネジメント講座開催!

随時、申込開始します。詳細はブログにてお知らせします。

【受講料】 無料 【主催】 千葉県 【問合せ・企画運営】 NPOクラブ



	日程	開催方法	講座名	講師	定員
1	9/7(木)	Zoom	ばっちり習得NPOの労務	石井敏則さん(社労士)	30名
2	10/5(木)	Zoom	ばっちり習得NPOの危機管理	石井敏則さん(社労士)	30名
3	11/7(火)	対面	演習でじっくり習得NPOの日常会計処理	加藤達郎さん(税理士)	30名
4	11/21(火)	対面	ばっちり習得NPOの年度末会計処理と事業報告書作成	早坂毅さん(税理士)	30名

※講座日程や開催内容は、変更になる場合があります。

〈編集・発行〉 特定非営利活動法人(認定NPO法人) ちば市民活動・市民事業サポートクラブ(NPOクラブ)

〒261-0011 千葉県千葉市美浜区真砂5-21-12 TEL 043-303-1688 FAX 043-303-1689

Mail: npo-club@par.odn.ne.jp URL: https://npoclub.com

ブログ: http://blog.canpan.info/npo-club1

Facebook「NPOクラブ」で検索 Twitter「NPOクラブ」で検索

・運営会員 23名 賛同会員 100名 発行 900部 会員・県内市民活動支援センター・自治体等にお届けしています。



つぎのいっぽん

地域力、福祉力、市民力 チカラをあつめる、つなぐ、高める、広げる～市民が主体の地域づくりを!

持続可能性の高い地域づくりを目指して
 ～人の輪、団体のつながりや広がりをつくる

2000年に設立してから23年間、NPOクラブは、地域の中間支援組織として活動を継続してきました。活動初期は「市民スクール」という名称で、生活クラブ生協の組合員を主な対象に、「畑の学校」や「田んぼの学校」といった体験型の講座や「原発のリスク」といった社会的なテーマの講座を開催、講座の企画・運営が主な活動でした。

1998年のNPO法制定後、それまで任意団体として活動していた団体の多くが法人化、事業を本格化する中、法人運営のためのスキルを高めることが必要となりました。法人運営のための会計講座やマネジメント講座を県の委託事業として実施、多くの団体の活動を支援しました。

2011年の東日本大震災は、私たちの暮らしに大きな影響を及ぼしました。NPOクラブでも、それまでの活動のつながりから、原発事故由来で、福島県から千葉県に避難して暮らす人たちの支援活動を担い、現在も継続しています。また、千葉県に大きな被害を及ぼした令和元年台風15号、19号の支援活動を機に立ち上がった「災害支援ネット

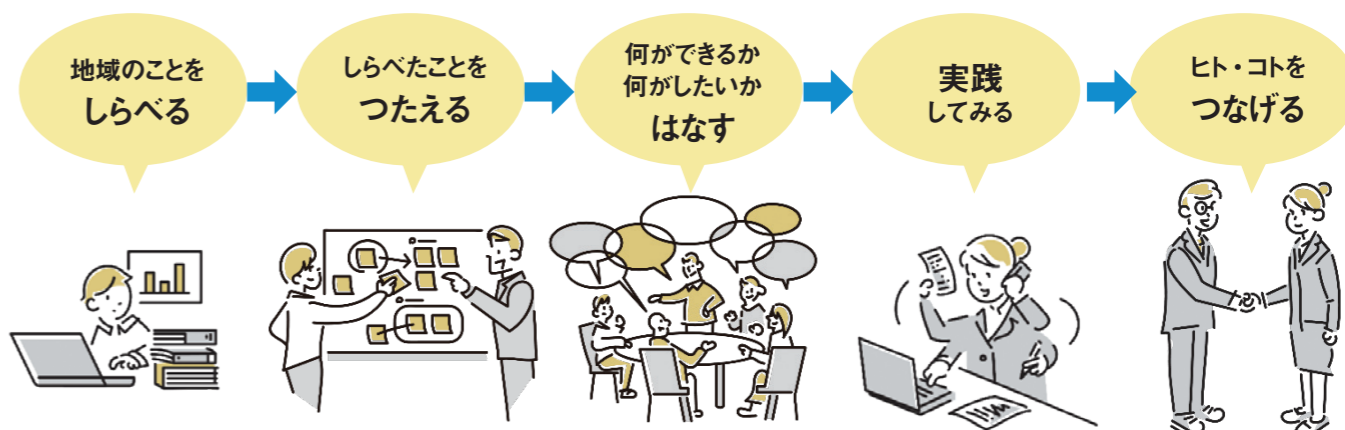
ワークちば(CVOAD)」の運営の一端も担っています。

四街道市みんな地域づくりセンターの運営事業を受託して、14年目になります。それ以前の、千葉市民活動支援センターの運営受託と合わせて、延べ約20年間、市民活動支援センターの運営に携わってきました。並行して、浦安市や富里市、白井市の市民活動支援センターの運営支援も実施、センター運営の視点の明確化とノウハウの蓄積が進み、今年度は、八街市協働のまちづくりコーディネーター育成事業を担っています。

NPOクラブでは、市民活動支援センターの運営や「ちばし地域づくり大学校」の事業を通して地域づくりや人材育成に関わる一方、県内外の団体とのつながりから災害支援の活動にも取り組み、役割や機能を広げてきました。生活困窮、孤独・孤立化といった多様な課題が顕在化する中、これからは、市民ひとりひとりの力を活かし、持続可能性の高い地域づくりを進めるために、「しらべる」→「つなげる」活動を継続したいと思います。



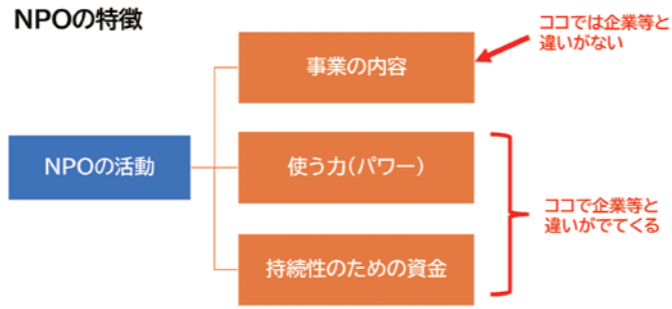
地域のヒト・コトをつなげるステップ



NPOの新しいマネジメントを学ぼう ～相利評価表を使って仲間と資金を増やそう～

講師：松原明さん(協力アカデミー代表)

令和4年度千葉県市民活動団体マネジメント事業にて行った同講師講座の理解をさらに深めるために、第23回NPOクラブ定期総会記念講演会として、2023年6月10日に開催しました。(参加者26名、幕張公民館)
これからのNPOマネジメントのあり方をテーマに、講義から相利評価表をつくるフレームワークまで行いました。



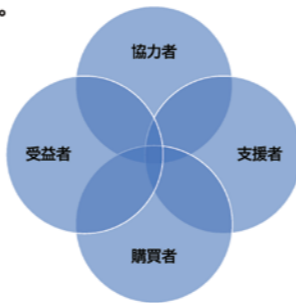
これからのNPOのマネジメントモデル

NPOのパワーの源泉は「協力者」にある。協力者は、NPO自体を支援したり、NPOの運営に協力するのではなく、NPOと一緒に役割を担って、問題解決に当たる者である。この協力の舞台(プラットフォーム)に上がってもらうために役割を作り、それぞれの利益(目的)＝「相利」を開発する。この相利を開発し、評価するために「相利評価表」というフレームワークを使う。

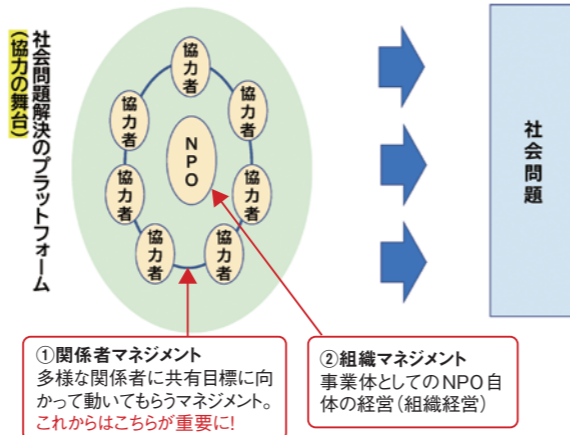
NPOの5つの関係者を分けること

NPO3.0において、重要なのは、協力者。この5つは区別すること

協力者	NPOのパートナー。目標を共有し、自ら目標実現のために活動する。
支援者	NPOのサポーター。目標は共有するが、NPOの活動を支援する。
購買者	NPOの活動におけるサービス・商品等の購買者。
受益者	NPO活動が支援する対象
無関係者	NPOの活動に関係がない者



これからのNPOのマネジメントモデル(プラットフォームモデル)



NPOの抱える2大課題

今日のNPOでは、人材、後継者不足と活動を継続させるための資金不足が大きな課題となっている。非営利という制約の中で人と資金を集めなければならない。NPOが抱える経営課題を乗り越えるためには5つの視点で考える必要がある。

NPOのマネジメントに必要な5つの視点

- (1) 企業と違うNPOの特徴を理解する
- (2) 協力の舞台(プラットフォーム)をつくる
- (3) 役割を作り、受け入れ態勢を整える
- (4) 相利を開発し、舞台に上ってもらうようにする
- (5) チャレンジを起点に、協力者を増やしていく

NPOの特徴は「協力」

NPOが使うパワーの源泉は「協力」である。人々の協力で社会を変えていくことがNPOの強みであり、NPOのマネジメントではこの強みを強化することが重要になる。つまり協力者を質と量で増やすことである。特に、組織の外にいて一緒になって問題に取り組むパートナー(協力者)を増やすことが、収入を増やすことにつながる。

地域猫活動の事例

「地域猫活動」の事例で相利開発の方法をしてみる。ポイントは、各関係者がしたいことは皆バラバラだが、一つのプログラムを行うことでそれぞれのしたいことが実現できるよう(相利が実現できるよう)に活動が設計されているということである。

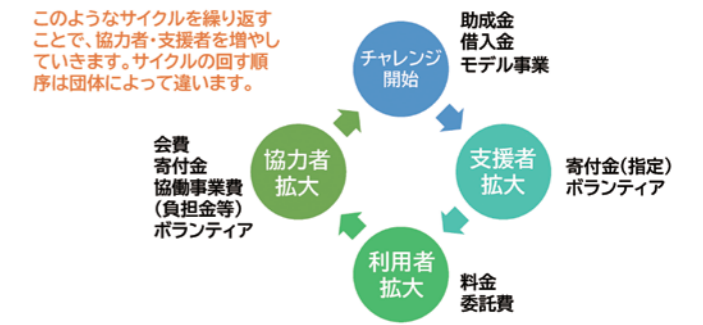
地域猫活動を相利評価表で整理すると

関係者	課題	目的	活動	役割	相利
NPO	可哀なネコがたくさんいる	ネコの幸せ	地域猫活動の普及啓発	地域ネコ活動の普及啓発	野良猫の減少
野良猫	餌に困っている	安全な暮らし	地域猫活動	周りに迷惑を掛けない	飢えなくて済む
地域の人々	ネコの迷惑	迷惑減	地域猫活動	理解と見守り	迷惑減
町内会長	住民トラブル	町内の平和	地域猫活動	場の設定	トラブル減
管理人	住人クレーム	家主の責任	地域猫活動	住人への啓発	クレーム減
保健所	殺処分多い	殺処分減	地域猫活動	住人への啓発	殺処分減
行政	法律守りたい	法律順守	地域猫活動	活動の後ろ盾	殺処分減

チャレンジを起点に協力者を増やしていく

無関係者を関係者に、関係者を協力者に変えていくことで、舞台に上がってくれる人を増やし、収入を増やす資金戦略につながる。その起点となるのが、チャレンジ(挑戦)。一人で達成できないことにチャレンジし、そこで支援や協力を求めていく。成し遂げられるゴールが価値あるものであれば、人々は支援や協力の機会を得られる。

チャレンジを起点とする資金開拓サイクルの例



講演会参加者へのインタビュー

NPO法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会(JFSA)理事長 **依知川守さん**

千葉市中央区都町3-14-10

衣類や毛布、バッグなどのリユース販売事業でパキスタン・カラチのスラム地域の学校の運営を支援しています。

SDGsやCSRの流れの中で、古着回収を行いたいという企業からの相談はよく頂きますが、自分たちの活動を後押ししてくれるという観点だけでは協力関係は長続きしないと気づきました。企業との連携を進めるためには、相手となる企業それぞれの相利を具体的に分析する必要があること、また自団体にとっての相利が何かを相手にもわかってもらうことで、協力関係が継続になると講座を通じてよく理解でき、相利評価表を活用してみたいと思いました。実際に協力して動くなかで、化学反応を起こしてこそおもしろい、そこで初めて「連携」といえるのだと思います。



商業施設での古着回収は、開催の告知チラシを周辺の学校に配布いただくなど協力も得ながらよい形で実施できていると感じていましたが、関係者それぞれの相利が成立しているからだ改めて理解できました。

今後は古着を寄付してくださる支援者、支援対象のパキスタンの学校を含めて、幅広く関係者それぞれの相利は何かを捉え直すことで、活動の繋がりを再認識し、これまでの関わりを更に深めつつ、新たな関わりを検討したいと思いました。

NPO法人地球市民交流基金 EARTHIAN 代表理事 **森田和子さん**

千葉市美浜区真砂5-21-12 1階

パキスタンのスラムにある学校の職業訓練所の交流支援やJVCラオスチームを通じてのラオスへの支援事業、フェアトレード品等の販売事業、講演会学習会などの啓発広報事業を行っています。

今は協力者が限定されていたり、一時的な協力関係で終わってしまうことが課題としてあります。講演を聞いて、協力の舞台を作ることができればお互いのやりたいことが違っても、一時的な協力関係ではなく継続的な関係づくりができるとわかりました。そのためには、考え方が異なる協力者に合わせて、役割分担を作ることが大切だと感じました。

相利評価表については、以前講演会に参加したときよりも理解が深まりました。今までは関係者を一面的にしか考えられませんでした。複数人で話すことで様々な発想が出て、多面的な考えが得られることがわかりました。

今後は、これまで関わった人や近隣の団体と連携するなど、つながりを活用していきたいです。